

尼崎市立若葉小学校
 平成２４年度
 学校評価

学校関係者評価委員会について

委員：学校評議員３名
 育友会長・副会長
 学校：校長、教頭

開催：第１回　平成２４年６月６日（水）
 午後６時～８時
 若葉小学校 校長室
 第２回　平成２５年３月８日（金）
 午後５時～７時
 若葉小学校 校長室

- 1
- 教育目標・めざす児童像
- ・若い芽を伸ばす子＝たくましく（強い体）　・考えを深め合う子＝かしこく（強い頭脳）　・場を美しく、心豊かな子＝やさしく（強い心）
- 2
- めざす学校像
- ・わくわく心がはずむ楽しい学校　・学習の基礎・基本をしっかりと学習できる学校　・地域の人々に親しまれる学校
- 3
- めざす教師像
- ・愛情をもって、全ての子どもの可能性を開く教師　・研修と研鑽に努め、人格と教育技能を磨く教師　・家庭と地域に信頼される教師
- 4
- 本年度の重点取組
- (1) 学力の向上　(2) 豊かな人間性の向上　(3) 健康の増進と体力の向上　(4) 保護者や地域に信頼され、活力に満ちた学校

- 5
- 本年度の研究テーマ
- 「自分の思いや考えを持ち、相手に伝わるように表現する子どもの育成をめざして」～伝え合う力（聞く・話す・話し合う）を育てる授業づくり～

- 6
- 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）

自己評価の基準	４：十分達成できた	３：達成できた	２：取り組んでいるが、成果は十分でない	１：取組が不十分である
関係者評価の基準	４：よく取り組んでおり、成果が大きい	３：熱心に取り組んでおり、今後が期待できる	２：取り組んでいるが、成果は十分でない	１：取組が不十分である

- (1)
- 学習意欲を高め、確かな学力を身につけさせる

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
授業改善をベースとした学力向上の推進	・全教員が１回以上の校内研究授業及び事後研究会を行うなど、学び合う教師集団作りを推進。市学力テストの詳細な分析を行い、結果を実践に生かす。 ・職員の合同研修会や授業の相互参観、児童の行事交流による小中連携を推進する。 ・特別支援コーディネーターを中心に、特別な支援の必要な児童の情報交換を全職員で行うなど、学校全体での支援を推進する。	・全教員が１回以上の校内研究授業を公開。事後研究会では講師を招聘し、質の高い研究会で学びを共有できた。市学力テストの結果を研究推進委員会で詳細に分析し、職員会で学校としての重点課題を全職員で共通理解できた。 ・夏季休業中と２月に３校合同職員研修を実施。生徒指導や学習指導等についても情報交換できた。授業の相互参観、児童の行事交流の実施。５年生の外国語活動の授業に中学校英語科から初めて出前授業の実施。６年生に対して初めてクラブ体験・入学前テストの実施など、滑らかにつながる小中連携への試みとなった。 ・年度当初、児童理解の時間を持ち、特別な支援の必要な児童を全職員で共通理解。毎月の職員会・特別支援教育推進委員会でも定期的に情報交換し、学校全体での支援を推進した。	2.5	・学力テストの分析結果を夏季休業中に行い、全職員による共通理解のもと、２学期からの指導に生かしていく。 ・従来の児童・生徒の行事交流にとどまらず、教員間の合同研修や合同会議、相互授業参観等を通して小中連携をすすめ、児童・生徒の生活や学力面での効果をねらう。 ・特別な支援の必要な児童について、全職員でさらに共通理解を深め、保護者を含めた全校体制で支援を行う。	・児童は落ち着いて学校生活を送っており、日々の学習や行事等においても、小規模校ならではのきめ細かな指導の成果が見られる。 ・基本教科である国語の力をつけるため、学力テストの結果の分析からの課題「読み取る力をつけていく手だてを考えていく」等の取り組みが求められる。 ・底辺の子の底上げが課題である。 （関係者評価：３.０）
滑らかな成長につなげる校種間の連携					
教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進					

- (2)
- 心の安定を図るとともに、規範意識や自己実現の意識を育み良好な人間関係づくりに取り組む

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
命を尊ぶ心を中心とした道徳性の涵養	・道徳の時間を軸として、『命の大切さ』を実感させる教育プログラム等の資料を活用し、道徳性を育成する。挨拶指導を全職員で徹底し、学校生活のあらゆる場でコミュニケーション能力の向上を図り、よりよい集団作りに努める。 ・家庭との連携・協力の下、基本的な生活習慣や情報モラル等に関する指導を充実させる。 ・ＳＣの活用等、相談体制を整えると共に、児童の内面理解に努め、長欠児童に対しても連携し、きめ細かな指導を充実させる。 ・さまざまな体験活動を通じて、勤労観や職業観を育成する。就学指導委員会を通して、適正な就学指導を行う。	・１０月のオープンスクールに全学年が道徳の参観授業を実施。校内に限らず地域の中でも「大きな声で気持ち良く挨拶してくれます」というお褒めの言葉をいただいた。集会活動で縦割りグループの活動を行うことにより、異年齢の助け合える関係が作れた。 ・生徒指導部を中心に名札・ハンカチの携帯の指導を継続して行い、改善が見られた。家庭・地域との連携をもとに基本的な生活習慣の確立、問題行動の早期発見・早期対応が図れた。 ・ＳＣの活用など、保護者・児童の相談しやすい環境づくりをすすめた。長欠児童・保護者の理解に努め、担任１人ではなく学校としての支援体制をとった。 ・学習や行事・体験活動などさまざまな教育活動を通して、学ぶことや働くことの意義を考えさせ、夢や目標を持てるような指導が推進できた。	2.5	・年間計画にそって道徳（人権）教育を推進し、オープンスクールでの全学年一斉の道徳（人権）参観授業を継続する。異年齢集団の交流を、集会活動などを通してさらにすすめる。 ・教師自らがていねいな言葉遣いを心がけるなど人権感覚を磨く。情報モラルに関する研修会を実施して、職員の規範意識を高め、指導につなげる。 ・保護者への温かい、ていねいな対応を心がけ、さらに保護者が相談しやすい雰囲気・体制を作る。今後も児童の欠席状態や理由の把握に努め、早期対応を図る。 ・学校や地域の特性を生かした行事・体験活動等を通して、適切な勤労観や職業観の育成を図っていく。就学指導委員会を通して、適正な就学指導を行う。	・児童が大きな声で挨拶をしてくれ、とても気持ちが良い。 ・欠席の多い児童に対して、その保護者も含め、相談しやすい環境づくりを引き続き進めてほしい。 ・命の大切さを表面的でなく、もっと踏み込んで教え、「命は自分だけのものではない」ということをしっかり植えつけなければならないと思う。 （関係者評価：３.０）
基本的生活習慣の確立と情報モラル等の指導の充実					
相談体制と長期欠席者の指導の充実					
進路指導の充実					

(3)健康の増進と体力の向上を図る

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
望ましい生活習慣の育成	・「食育」の推進および家庭との連携による「早寝・早起き・朝ごはん」運動などを通して、望ましい生活習慣を育成する。 ・保健だより等を通して、自分の身体や健康について関心を持たせると共に、業間休憩、昼休み等に外遊びを奨励。水泳大会、マラソン大会等体育的行事を充実させ、身体を動かす楽しさや喜びを体感させる。	・「食育だより」やお昼の給食放送、給食週間の取り組み等を通して、「食」に関する正しい知識を啓発し、望ましい生活習慣の育成に努めた。「朝ごはん」は9割の子どもがほぼ毎朝食べて登校しているが、「早寝早起き」の割合は学年が上がるごとに低くなる傾向があった。 ・「保健だより」等により、健康への関心を持たせると共に、体育的行事を充実させ、外遊びを奨励し、健康の増進や体力の向上が図れた。	3.0	・家庭と協力して、「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進する。望ましい生活習慣についての啓発を図る。 ・引き続き、食育の推進と体育的行事の充実に取り組む。学校保健委員会の活性化を図る。	・若葉小の体育的行事等の取り組みは充実している。 ・ジョギングタイムで、毎日記録しているジョギングカードは子どもにとって、とても励みになっている。 ・「早寝・早起き」等の家庭での生活習慣の問題は、家庭で賅けることではあるが、これからも啓発を続けて家庭と連携を図ってほしい。（関係者評価：4.0）
健康の増進と体力の向上					

(4)保護者や地域に信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
登下校の安全確保の取組の充実と校内の安全	・保護者や地域、関係機関との連携で登下校時の安全を確保すると共に、児童の危機回避能力の育成を図る。校内防犯訓練を実施し、職員の危機管理意識の向上を図る。 ・学校評価を活用して教育活動の成果を検証し、次に生かす。 ・学校だより・HP・掲示板等により、本校の教育活動を外部に発信すると共に、オープンスクールや行事等、開かれた学校作りを推進。地域行事に積極的に参加すると共に地域人材の活用を図る。 ・研究会・研修会への参加を奨励するなど、教職員の自己研鑽を支援する。	・年度当初と8月に、通学路を点検。見守り隊等の協力を得て登下校時の安全を確保、安全管理員・校門の施錠システムを活用し、校内の安全を確保。7月に校内防犯訓練を行い、教職員の危機管理意識の強化を図った。登下校通過を知らせるメールシステム（ミマモルメ）を導入した。火災訓練、（予告なし）地震訓練、地震・津波訓練（1.17を忘れない地域防災訓練）を通して、意識付けができた。 ・学校評価保護者アンケートをほぼ全員から回収できた（回収率98.6%）。全職員で、学校評価アンケートの結果を検討した。学校関係者評価委員会を、6月と3月の年2回実施できた。 ・学校だより・HP・掲示板等で、本校の教育活動について外部に情報発信すると共に、オープンスクールや行事等では保護者・地域アンケートを実施・集約し、全職員で検討した。 ・研究会・研修会への参加は、やや少なかった。	3.0	・朝の挨拶当番（育友会活動）の活性化を図る。避難訓練に関しては、より安全で、より効果的・实际的な訓練となるよう検討を重ねる。 ・全職員で学校評価の結果を分析し、次の教育実践に活用する。 ・学校だより・HP・掲示板等で、本校の教育活動について、今以上に情報発信していく。オープンスクールや行事等、保護者・地域アンケートの結果を生かし、充実したものにする。地域人材の発掘・活用を図る。 ・研修会、研究会への参加態勢を組み、教職員の自己研鑽を支援する。	・育友会の朝の挨拶運動は月2回であるが、仕事を持っている人も多く、なかなか難しい。学年によって参加率に差がある。 ・学校開放での利用者に、日を決めて運動場や体育館の掃除を課している学校もある。隅々まできれいにできるので一考の価値あり。 （関係者評価：3.0）
学校評価の活用					
地域とのつながりを重視した開かれた学校園づくりの推進					
教職員の自己研鑽					

(5)教育目標

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開	・教育目標は全職員が共通理解し、その達成に向けた教育活動を推進。保護者や地域へも学校だより、HP等で知らせる。 ・各学年に応じて教育目標を具現化し（学級目標等）、児童に意識させながら、指導を充実させる。	・教育目標を全職員に説明し、保護者や地域へも学校だより・HP等で広く知らせた。加配教員の配置を工夫し、児童の学力向上、生徒指導に生かした。 ・オープンスクールや行事等での保護者・地域アンケート結果から、教育目標の具現化が図れているか検証した。兵庫型教科担任制を導入し、5・6年生の理科と算数で教科担任制を実施。市や国の学力調査の結果を分析し、指導に生かすことができた。	3.0	・教育目標達成のために、PDCAサイクルにそって、計画的に継続して指導を行っていく。 ・保護者・地域アンケートの結果から、目標の具現化が図れているか検証し、その結果を一人一人の教職員が日々の指導に生かすよう心がける。兵庫型教科担任制の良さを生かした指導を継続し学力向上を図る。	・PDCAサイクルが機能し、次年度につなげる仕組みができている。 ・算数の新学習システムはとても効果的である。 （関係者評価：3.0）
教育目標の具現化と指導の充実					

(6)研究テーマ

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開	・研究テーマを共通理解し、全教科を通して言語活動の充実を図る。 ・研究テーマを教科に応じて具現化し、児童に意識させながら、指導を充実させる。	・国語科だけでなく、他教科でも研究テーマにそった研究授業を実施し、事後研究会で意見交換できた。 ・全学年で朝学習での音読を取り入れている。委員会活動など教科外での児童の活動においても言語活動を推進した。	2.5	・国語科を中心に国語以外の全教科においても、伝え合う力を育てる授業作りを一層進める。 ・行事や集会活動等、学習以外の児童の活動でも研究テーマを意識し、全職員で指導に取り組む。	・読書週間の取り組みの一環として行った「人形劇」に対し、4・5年生が自分なりに感じたこと、考えたことを手紙に書いて伝えてくれた。そのお礼の手紙の中にも、研究テーマ「伝え合う力の育成」の成果が見えた。（関係者評価：3.0）
研究テーマの具現化と指導の充実					

※ その他の評価項目 （A：優れている B：適切である C：おおむね適切である D：要改善）

アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B